

## 総合診療科

和田 晃

総合診療科は、これまで各診療科、当直、研修医が個別に行っていた診療のうち、一般救急の中で専門診療科の特定が困難な症例や合併症を有する症例の診療を行い、また一般内科の初診症例の初療を担当する。このために内科全般についての広い知識・技能を核としさまざまな患者の状態に対応できる総合診療医として、救急患者の初療や症候診断、複数疾患を有する患者の診療能力を幅広く身につけた医師の育成を目指す。研修医、専修医に対しては総合診療医としての診断能力、治療手技の習得を目指す研修の場を提供している。

### 【2013年度研究発表業績】

#### B-4

杉浦寿央、赤垣冬子、窪田慶一、大森弘基、中森綾、和田晃：腎超音波ドプラ検査における resistive index と腎障害進行：CKD ステージ別リスクの検討。第 56 回日本腎臓学会学術総会、東京、2013 年 5 月

藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：保存期 CKD 患者における血清亜鉛濃度と貧血の関連性。第 56 回日本腎臓学会学術総会、東京、2013 年 5 月

倭成史、藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁：保存期 CKD 患者における PTH の日内変動消失と血中 Ca 濃度の関係。第 56 回日本腎臓学会学術総会、東京、2013 年 5 月

中野知沙子、森影直子、藤村龍太、荒田夕佳、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：維持血液透析患者における炭酸カルシウム内服と冠動脈疾患リスク。第 58 回日本透析医学会学術集会、福岡、2013 年 6 月

#### B-5

和田晃：大阪府下の結核症の現況。第 82 回大阪透析研究会教育講演、大阪、2014 年 3 月

#### B-6

藤村龍太、島陽子、森影直子、中野知沙子、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：症候性てんかんによる横紋筋融解症が原因となった急性腎障害の一例。第43回日本腎臓学会西部学術大会、松山、2013年10月

森影直子、中野知沙子、島陽子、藤村龍太、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：全身性の多発血栓症による急性腎障害の一例。第43回日本腎臓学会西部学術大会、松山、2013年10月

倭成史、森影直子、島陽子、藤村龍太、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁：2度のCAPD腹膜炎治療中に腹膜透析排液中のHigh Mobility Group Box 1濃度を検討した1例。第43回日本腎臓学会西部学術大会、松山、2013年10月

小笠原充幸、和田万葉、河野匡子、松本謙太郎、中島伸、和田晃：倦怠感、頭痛、不眠を主訴とし診断が困難であった脳膿瘍の1例。第27回日本プライマリケア連合学会近畿地方会、神戸、2013年9月

森寛泰、杉田礼子、山口壽美子、松本謙太郎、小笠原充幸、中島伸、和田晃：大阪医療センターにおける特定看護師施行事業の取り組み。第27回日本プライマリケア連合学会近畿地方会、神戸、2013年9月

島陽子、森影直子、藤村龍太、中野知沙子、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：酢酸代謝負荷が急性高K血症の誘因と考えられた保存期慢性腎臓病の1例。第201回日本内科学会近畿地方会、京都、2013年9月

田矢直大、倭成史、島陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁：ステロイド投与により低補体血症の改善を認めたC3 glomerulonephritisの1例。第201回日本内科学会近畿地方会、京都、2013年9月

飯田吉則、倭成史、島陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁：トルバプタンによる体液管理が有効であったネフローゼ症候群の1例。第202回日本内科学会近畿地方会、大阪、2013年12月

峰松佑輔、倭成史、湊拓巳、藤井順也、池宮裕太、柴田純一、岡田俊樹、和田晃、伊藤孝仁、黒岩拓真、森耕平、田岡幸恵、岡田俊樹：腹水濾過濃縮再静注法（CART）における炎症性サイトカイン濃縮の検討。第81回大阪透析研究会、大阪、2013年9月

中島伸、山中一功、埜中正博、金村米博、森康輔、木谷知樹、宮崎裕子、梅原徹：

医療過誤の賠償責任成立の3要件について 第75回大阪大学脳神経外科 関連施設臨  
床懇話会、大阪、2013年7月

B-8

中島 伸：子どもの脳外科疾患について～髄液減少症を含めて～ 平成25年度大阪市  
学校保健会定時総会講演会、大阪、2013年7月

中島 伸：ワールド・カフェとは？ 国立病院機構本部 平成25年度リーダー育成共同  
宿泊研修、静岡、2012年9月

中島 伸：女性医師支援について 大阪府医師会第10ブロック 女性医師支援ワーキン  
ググループ会議、大阪、2013年9月

中島 伸：軽症頭部外傷の診療、その他 平成25年度日本医師会生涯教育講座病院実  
習、大阪、2013年10月

## 腎臓内科

伊藤孝仁

当科は、(1)慢性進行性腎疾患の診断と治療、(2)血液透析あるいは腹膜透析導入・腎移植への橋渡し、(3)腎機能障害者(維持透析中ならびに非透析期)に生じる血管合併症・骨合併症の予防ならびに診断と治療、(4)急性腎障害(Acute Kidney Injury、急性腎不全)の診断と治療、(5)ネフローゼ症候群の診断と治療、(6)HIV感染者診療における腎合併症の診断と治療・予防、(7)難治性高血圧の原因診断と治療、(8)副腎腫瘍や副甲状腺腫瘍の診断ならびに外科への橋渡し、(9)SIRSや敗血症に対する集学的治療サポート、(10)特殊体外循環治療のサポート、等を行っている。

慢性進行性腎疾患の代表例であるIgA腎症に対しては徹底した治療を行い高い寛解導入率を維持している。糖尿病性腎症に対しては、徹底した血管合併症の進行予防を行っている。難治性ネフローゼ症候群に対して、基礎研究機関等と連携して、より正確な診断と病態に則した適切な治療の提供を目指している。

腹膜透析治療は血液透析と異なる利点を有しており、現状より普及度を高める価値がある。腹膜透析に関して大阪府下複数施設の連携で新規に臨床研究プロジェクトを当院主導で開始した。今後も継続的に適応症例にたいして腹膜透析導入を推進する。

当院では多数の急性腎障害例がみられる。日常診療を通じて院内の治療成績向上に寄与したい。実際にはエンドトキシン吸着カラムと新世代の抗凝固薬であるトロンボモデュリンを組み合わせることにより、急性腎障害の回復並びに救命成績を大幅に向上させており、学会等で報告を行っている。より高い治療効果を目指していく。

当院はHIV感染症の拠点病院であり、多くのHIV感染者を治療している。HIV感染治療を行う免疫感染症内科と連携し、HIV自体による腎障害の診断と治療、抗ウイルス剤による腎合併症の早期診断と治療・予防、に貢献している。

当科では初期研修医ならびに後期研修医に対する教育を厳しく、かつ丁寧に行っている。初期研修医の診療習熟度向上に対して大きく貢献していると自負している。また後期研修では腎専門医育成を目標とし、非常に多岐にわたる当科の診療対象について、論理的な思考と的確な診断アルゴリズムと治療選択が行えるように努めている。

今後とも地域医療機関と連携し、急性期病院としての当科の利点を生かしつつ、社会に貢献できるよう心がけたいと考えている。

### 【2013年度研究発表業績】

A-0

Yamato M, Minematsu Y, Fujii J, Mori K, Minato T, Miyagawa S, Fujimura R, Morikage N, Arata Y, Nakano C, Wada A, Ito T. Effective combination therapy of polymyxin-B direct hemoperfusion and recombinant thrombomodulin for septic shock accompanied by

disseminated intravascular coagulation: a historical controlled trial. Ther Apher Dial. 17:472-6, 2013

## **B-2**

Ito T, Shima Y, Morikage N, Fujimura R, Nakano C, Wada A, Yamato M. Glycosuria under Normoglycemia may be an Unrecognized Characteristic of Chronic Kidney Disease. American Society of Nephrology, Atlanta, USA, 2013年11月

Yamato Y, Fujimura R, Morikage N, Arata Y, Nakano C, Wada A, Ito T. Loss of diurnal variation of PTH is associated with sustained mild hypercalcemia in non-dialyzed chronic kidney disease patients. World Congress of Nephrology, Hong Kong, 2013年6月

Yamato M, Minematsu, Y Fujii J, Minato T, Shima Y, Fujimura R, Morikage N, Nakano C, Wada A, Ito T. Effective combination therapy of Polymyxin-B direct hemoperfusion and recombinant thrombomodulin for septic shock accompanied by disseminated intravascular coagulation: a historical controlled trial. International Conference on Advanced in Critical Care: Continuous Renal Replacement Therapy (CRRT), San Diego, USA. 2014年3月

## **B-3**

倭 成史、峰松佑輔、藤井順也、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁. 血液浄化で臓器障害スパイラルを止められるか：PMX-DHPは臓器障害スパイラルを止められるか. 第24回急性血液浄化学会、東京、2013年9月

## **B-4**

倭 成史、藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁、峰松祐輔. DIC 併発敗血症性ショックに対する PMX-DHP とリコンビナントとロンボモジュリン併用療法の有用性. 第58回日本透析医学会学術集会、福岡、2013年6月

中野知沙子、森影直子、藤村龍太、荒田夕佳、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁. 維持血液透析患者における炭酸カルシウム内服と冠動脈疾患リスク. 第58回日本透析医学会学術集会、福岡、2013年6月

牧野順一、牧野邦四郎、井出敏裕、伊藤孝仁. 血液透析患者における大動脈弓部石灰化の進行についての検討. 第58回日本透析医学会学術集会、福岡、2013年6月

伊藤孝仁、森影直子、藤村龍太、荒田夕佳、中野知沙子、倭 成史. 細胞逸脱酵素を利用した腎機能評価および予後の推測. 第56回日本腎臓学会学術総会、東京、2013年5

月

倭 成史、藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁. 保存期CKD患者におけるPTHの日内変動消失と血中Ca濃度の関係. 第56日本腎臓学会学術総会、東京、2013年5月

藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁. 保存期CKD患者における血清亜鉛濃度と貧血の関連性. 第56回日本腎臓学会学術総会、東京、2013年5月

中野知沙子、矢嶋敬史郎、島 陽子、森影直子、藤村龍太、倭 成史、和田 晃、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、大寺 博、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、伊藤孝仁. ツルバダ®からエプジコム®へ薬剤変更を行ったHIV感染者の腎障害に関する検討. 第27回日本エイズ学会、熊本、2013年11月

#### **B-5**

伊藤孝仁. HIV陽性透析患者の施設間紹介の現状. 第23回中之島カンファレンス、大阪、2013年7月

#### **B-6**

中野知沙子、島 陽子、森影直子、藤村龍太、倭 成史、伊藤孝仁. 炭酸カルシウムがもたらす維持透析患者の医原性冠動脈疾患リスク. 脳心血管加齢研究会、大阪、2013年12月

藤村龍太、島 陽子、森影直子、中野 知沙子、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁. 症候性てんかんによる横紋筋融解症が原因となった急性腎障害の一例. 第43回日本腎臓学会西部部会、松山、2013年10月

森影直子、中野 知沙子、島 陽子、藤村龍太、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁. 全身性の多発血栓症による急性腎不全の一例. 第43回日本腎臓学会西部部会、松山、2013年10月

倭 成史、森影直子、島 陽子、藤村龍太、中野 知沙子、和田 晃、伊藤孝仁. 2度のCAPD腹膜炎治療中に腹膜透析排液中のHigh Mobility Group Box 1 (HMGB1)濃度を検討した一例. 第43回日本腎臓学会西部部会、松山、2013年10月

田矢直大、倭 成史、島 陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝

仁. ステロイド投与により低補体血症の改善を認めた C3 glomerulonephritis の一例. 第 201 回日本内科学会近畿地方会、京都. 2013 年 9 月

島 陽子、森影直子、藤村龍太、中野知沙子、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁. 酢酸代謝負荷が急性高 K 血症の誘因と考えられた保存期慢性腎臓病の一例. 第 201 回日本内科学会近畿地方会、京都. 2013 年 9 月

飯田吉則、倭 成史、島 陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁. トルバプタンによる体液管理が有効であったネフローゼ症候群の一例. 第 202 回日本内科学会近畿地方会、大阪. 2013 年 12 月

## **B-8**

伊藤孝仁. CKD 診療は糖尿病の有無で異なるか? CKD 病診連携セミナー、大阪、2013 年 10 月

森影直子. 腎性貧血以外を対象としたエリスロポエチン使用経験. CKD 病診連携セミナー. 大阪、2013 年 10 月

倭 成史、島 陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁. 保存期 CKD 患者における PTH の日内変動消失と血中 Ca 濃度の関係. 第 32 回腎と骨代謝研究会学術集会、2013 年 10 月

倭 成史. 急性血液浄化で臓器障害スパイラルを止められるか: DIC seminar~Current Status of Medical Treatment of DIC~, 大阪、2013 年 7 月

倭 成史. 良質な糖尿病治療を目指して: 腎臓内科医の立場から見た DPP-4 阻害薬への期待、大阪、2013 年 7 月

倭 成史. 心腎連関~若手循環器内科医へのメッセージ、若手循環器研鑽会、大阪、2013 年 8 月

倭 成史. 腎臓内科からみたサムスカ~ネフローゼ症候群での使用経験~. 関西水の会、大阪、2013 年 9 月

倭 成史. 私からみたサムスカ~ネフローゼ症候群での使用経験~サムスカは単なる水利尿薬か?、心腎水の会、大阪、2013 年 12 月

倭 成史. DIC を合併した敗血症性ショックに対する PMX-DHP と rTM の併用療法. DIC seminar. 大阪、2014 年 2 月

倭 成史. 尿化学から見えた？ネフローゼ症候群に対するトルバプタンの治療効果. 関西水の会. 大阪、2014 年 3 月

## 糖尿病内科

瀧 秀樹

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、QOL 改善に取り組んでいる。国立病院機構の共同研究として糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立 (HBP-DN)、DPP-4 阻害薬による膵β細胞保護効果の検討、2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討に参加している。

### 【2013 年度研究発表業績】

A-0

Nishimura M, Kato M, Tanaka T, Todo R, Tone A, Yamada K, Ootani S, Kawabe Y, Yoshizumi H, Hoshiyama Y. Significance of estimating the glomerular filtration rate for the management of hypertension in type 2 diabetes with microalbuminuria. Hypertension Research 2013;36:705-710

A-5

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、浦田正司、風間敬一、加藤研、森本竹紗、豊田久子、和田万葉、瀧秀樹：教育入院中の 2 型糖尿病患者における EPA 強化の有効性。医療の広場 2014;54(3):30-33

A-6

瀧秀樹：糖尿病治療のいま～高齢者に適した血糖コントロール～。天王寺区医師会会報 2014;126:15-16:

B-4

森田灯子、大谷弥里、大池教子、豊田久子、森本竹紗、和田万葉、加藤研、瀧秀樹：2 型糖尿病患者の EPA/AA 比の特徴と糖尿病食事療法が EPA/AA 比に及ぼす影響の検討。第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2013 年 5 月

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、風間敬一、加藤研、和田万葉、森本竹紗、豊田久子、瀧秀樹：2 型糖尿病患者における EPA 強化の有効性。第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2013 年 5 月

関直人、西村英夫、大谷すみれ、西村元伸、宇治原誠、青木雄次、志田幹雄、田中剛史、八幡兼成、瀧秀樹、河田公子、肥田和之、小田賀明、井俊彦、吉住秀之、河部庸次郎、

菊池秀年、山岸美奈子、米島正：糖尿病腎症進展阻止のための抗血小板薬（シロスタゾール）の有用性に関する多施設共同プラセボ対照二重盲検用量比較試験（第二報）。第 67 回国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月

西村元伸、米澤一也、田口修一、大谷すみれ、杉山隆夫、鈴木誠司、村瀬孝司、田中剛史、山田和範、瀧秀樹、安東豊、鴻山訓一、河田公子、利根淳仁、長瀬教夫、齊藤美穂、吉田和矢、吉住秀之、河部康次郎、郡山暢之、星山佳治：国立病院機構 EBМ のための大規模研究 糖尿病腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立（HBP-DN）第 4 報。第 67 回国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月

#### B-6

森本竹紗、森田灯子、光井絵理、加藤研、瀧秀樹、関本貢嗣、原口直紹、林覚史： $\alpha$ -GI 内服中に腸管気腫症と門脈ガス血症を認め、中止により保存的に改善した一例。第 50 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2013 年 11 月

#### B-6

光井絵理、加藤研、森田灯子、森本竹紗、廣田和之、矢嶋敬史郎、上平朝子、白阪琢磨、瀧秀樹、：HIV 感染症治療中に 1 型糖尿病とバセドウ病を発症した 1 例。第 50 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2013 年 11 月

山尾美希、山口愛美、福山雅代、増田雅子、中山環、風間敬一、森田灯子、森本竹紗、光井絵理、加藤研、瀧秀樹、：糖尿病透析予防外来で望まれる看護師の役割。第 50 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2013 年 11 月

森田灯子、加藤研、大谷弥里、風間敬一、森本竹紗、光井絵理、瀧秀樹、：腎症 3 期以降の 2 型糖尿病患者の EPA/AA 比に及ぼす影響の検討。第 50 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2013 年 11 月

#### B-8

加藤研：1 型糖尿病治療の過去・現在・未来について。第 44 回若草会総会、大阪、2013 年 4 月

加藤研：1 型糖尿病のカーボカウントについて。糖尿病と脂質代謝を考える会 in Osaka、大阪、2013 年 4 月

森本竹紗、重原万葉、森田灯子、光井絵理、加藤研、瀧秀樹：Klebsiella pneumoniae による腎周囲膿瘍から転移性眼内炎を来した 2 型糖尿病の一例。第 7 回大阪糖尿病臨床カ

ンファレンス、大阪、2013年5月

瀧秀樹：糖尿病治療のいま～高齢者に適した血糖コントロール～。第7回天王寺区医師会スモールミーティング、大阪、2013年7月

瀧秀樹：糖尿病の治療 - 1型糖尿病を中心に - 。琵琶湖カンファレンス in 大阪 2013、大阪、2013年7月

瀧秀樹：糖尿病の治療～高齢者・腎症患者を中心に～。良質な糖尿病治療を目指して、大阪、2013年7月

瀧秀樹：ワインにまつわる気楽な話題から糖尿病治療薬の選択まで。食と健康を考える会～糖尿病を考える会～、大阪、2013年8月

加藤研：当院での1型糖尿病患者に対する取り組み。トレシーバ®学術講演会。トレシーバ®学術講演会、大阪、2013年8月

加藤研：入院および外来でのトレシーバ使用経験。トレシーバ学術講演会、大阪、2013年9月

加藤研：「みんな病気で悩んでいる もちろん私も悩んでいる。」～1型糖尿病歴28年 医師歴14年で思うこと～。DM VOX、大阪、2013年9月

加藤研：「1型糖尿病患者兼医師の立場から選ぶ治療法」 ～1型糖尿病歴28年,医師歴14年の経験から～。西尾張 Expert Meeting、大阪、2013年10月

加藤研：ヤング世代の1型糖尿病患者への取り組み～CSII療法導入入院と外来CGMを中心とした地域連携の可能性～。糖尿病クリニカルカンファレンス、大阪、2013年10月

加藤研：当院のヤング1型糖尿病患者に対する取り組み～1型糖尿病専門外来の立ち上げ・CSII療法・外来CGMを中心に～。第3回 中央線糖尿病連携座談会、大阪、2013年11月

森田灯子：当院2型糖尿病教育入院患者のEPA/AA比の現状とEPAを取り巻く話題について。第8回中央区糖尿病病診連携フォーラム、大阪、2013年11月

加藤研：1型糖尿病患者兼医師の立場で選ぶ治療法。第九回 中央区開業医病診連携の

会、大阪、2013年12月

瀧秀樹：糖尿病とがんのリスクについて。Colorectal Cancer Frontier Meeting、大阪、2014年1月

瀧秀樹：糖尿病とがんのリスクについて。Colorectal Cancer Frontier Meeting、大阪、2014年1月

加藤研：1型糖尿病患者の気持ちとのつきあい方（コツがあるのか?）。第2回阪神糖尿病チーム医療セミナー、大阪、2014年1月

加藤研：糖尿病教育入院患者の $\omega$ -3系脂肪酸について。糖尿病治療検討会 in Osaka、大阪、2014年2月

光井絵理：当院の糖尿病患者に対するインスリン治療の現状。Diabetes Update Conference、大阪、2014年2月

加藤研：CSII療法施行1型糖尿病患者のトラブルについて、良い解決策をDISCUSSIONしよう。第2回 阪大1型糖尿病塾、大阪、2014年3月

加藤研：当院糖尿病内科の取り組みと糖尿病薬物治療について。Meet The Expert <糖尿病専門医の処方学ぶ>、大阪、2014年3月

森本竹紗：OHAの次の一手は？GLP-1併用。第1回Diabetes seminar、大阪、2014年3月

森田灯子：OHAの次の一手は？インスリン併用。第1回Diabetes seminar、大阪、2014年3月

B-9

加藤研：1型糖尿病患者の医療制度について 関西テレビ ニュース アンカー、大阪、2014.2月

## 血液内科

### 池田弘和

当院血液内科では、血液疾患全般について診療しています。具体的には、赤血球系では再生不良性貧血、溶血性貧血、白血球系では各種白血病、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、止血・凝固系では特発性血小板減少性紫斑病などです。これらの疾患を適切に診断し、最新のガイドラインに沿いながら、患者さんの意向もふまえて個々のケースに最適な方法を選択し、治療を行います。病棟には無菌室が4床設置され、造血器腫瘍の治療では、通常化学療法に加え、自家末梢血幹細胞を主とした造血幹細胞移植支持による超大量化学療法も可能です。また、年齢、合併症や治療抵抗性により根本的な治療が困難な症例では、QOLを重視した治療法や緩和医療も選択しています。臨床的に特異な症例については学会等で報告し、また他施設とも協力して臨床研究を行っています。

#### 【2013年度研究発表業績】

A-0

Nakazuru S, Yoshio T, Suemura S, Iwasaki R, Hasegawa H, Sakakibara Y, Mita E, Ikeda H, Mori K, Mano M: Education and Imaging. Gastrointestinal: Unusual duodenal follicular lymphoma observed by magnifying endoscopy with narrow-band imaging. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2013; 28(8):1255 (2013年8月)

A-6

本行秀成、多田雄真、水野香織、池田弘和、井上信正: 多発性骨髄腫寛解後に再発した髄外性形質細胞腫に対して自家造血幹細胞移植が奏功した一例。

*臨床血液* 2014; 55(2):263 (2014年2月)

B-6

本行秀成、多田雄真、水野香織、池田弘和、井上信正: 多発性骨髄腫寛解後に再発した髄外性形質細胞腫に対して自家造血幹細胞移植が奏功した一例。

第100回近畿血液学地方会、大阪市、2013年11月

多田雄真: ホジキンリンパ腫精査中に肺癌が指摘された重複癌症例。第8回Hematological PET Club 研究会、大阪市、2014年3月

## 呼吸器内科

### 小河原光正

呼吸器内科は呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）を専門として診療を行っており，呼吸器外科，放射線診断科，放射線治療科，臨床検査科と協同で肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている．また，気管支鏡診断に力を入れている．呼吸器外科と共同で肺癌の診断と治療に関する研究発表，症例報告を行った．稀な肺癌の治療経験，腫瘍との鑑別が困難であった稀な疾患の症例報告を行った．

また，国立病院機構共同研究，大阪大学呼吸器内科/大阪府立成人病センター，徳島大学呼吸器・膠原病内科，近畿中央胸部疾患センターなどから依頼された多施設共同臨床試験へも参加・協力した．

#### 【2013 年度研究発表業績】

##### B-4

安藤性實，小河原光正，木村剛，宮本智，大宮英泰，高見康二，栗山啓子，児玉良典，真能正幸：喀血を主訴に受診した原発性肺アミロイドーシスの一例．第 36 回日本呼吸器内視鏡学会．さいたま，2013 年 6 月．

高見康二，大宮英泰，小河原光正，宮本智，木村剛，安藤性實，栗山啓子，真能正幸，中森正二，関本貢嗣：右上葉発生肺癌の縦隔リンパ節郭清に関する検討．第 54 回日本肺癌学会総会．東京，2013 年 11 月．

大宮英泰，高見康二，中森正二，関本貢嗣，小河原光正，栗山啓子，真能正幸，大林千穂：骨形成を伴った原発性肺癌の 1 例．第 54 回日本肺癌学会総会．東京，2013 年 11 月．

##### B-6

安藤性實，小河原光正，木村剛，宮本智，大宮英泰，高見康二，栗山啓子，田中英一，森清，真能正幸：長期生存が得られた気管癌の小細胞癌の一例．第 93 会日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会．大阪，2013 年 7 月．

## 脳卒中内科

恵谷秀紀

急性期脳梗塞患者さんを対象に Stroke Team での診療を行っています。主に SCU (Stroke Care Unit : 脳卒中ケアユニット 6 床) に急性期患者さんを受け入れ、質の高い治療を目指し日々の診療に努力しています。当院での集中治療 (tPA 血栓溶解療法、血管内治療を含む) から回復期リハビリテーションへの継ぎ目のない医療を患者さんに提供することを目的に、2008 年より脳卒中地域連携パスを使用し、より充実した脳卒中診療を行っています。

今後もスタッフ一同、より一層の研鑽を積んで参りたいと考えています。よろしくお願い致します。

### 【2013 年研究発表業績】

A-0

Yamamoto S, Yamagami H, Todo K, Kuramoto Y, Ishikawa T, Imamura H, Ueno Y, Adachi H, Kohara N, Sakai N. Correlation of Middle Cerebral Artery Tortuosity with Successful Recanalization Using the Merci Retrieval System with or without Adjunctive Treatments. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 2014;54:113-119

Yamamoto S, Todo K, Kawamoto M, Kohara N. Carotid Artery Dissection Associated with an Elongated Styloid Process. *Intern Med*. 2013;52:1005-1006

A-3

山本司郎, 永野誠治, 芝田純也, 國枝武治, 今井幸弘, 幸原伸夫. 脳室炎と類似する画像所見を呈した中枢神経原発悪性リンパ腫. *臨床神経*. 2013 ; 53:831-834

A-4

永野恵子 : 下肢静脈 *Vascular Lab*. 2013;10:38-43

永野恵子, 長束一行 : 頸動脈エコー. *臨床放射線* 2013;58:913-924

B-4

玄 富翰, 永野恵子, 木村陽子, 多賀谷昌史, 恵谷秀紀 : “様々な病態や形態変化を呈した特発性内頸動脈解離”。第 32 回日本脳神経超音波学会総会、2013. 6.13~15. 徳

島市

木村陽子、玄 富翰、永野恵子、多賀谷昌史、恵谷秀紀：“頸動脈超音波検査で plaque の動的な形態変化をリアルタイムにとらえた 1 例”。第 32 回日本脳神経超音波学会総会、2013. 6.13～15. 徳島市

玄 富翰、永野恵子、山本司朗、木村陽子、恵谷秀紀：“椎骨動脈解離に脳梗塞後に難聴を呈し、人口内耳埋め込み術により改善を認めた 1 例”。第 16 回日本栓子検出と治療学会（Embolus2013）,2013.10.12～13,名古屋市

木村陽子、山本司郎、玄富翰、永野恵子、恵谷秀紀：“中大脳動脈 M2 一枝の急性閉塞の内科治療による転帰。第 39 回日本脳卒中学会総会、大阪、2014.3.13～15

B-6

木村陽子、山本司郎、玄富翰、永野恵子、恵谷秀紀：“感染性心内膜炎に伴った脳底動脈閉塞の一例”。Fighting Vascular Events in Kobe 2013：虚血性脳血管障害に対する脳血管内治療 2013.9.14、神戸

B-8

永野恵子：動脈硬化について考える会。H25 年 5 月 18 日 スイスホテル南海大阪  
臨床における頸動脈超音波検査の実際

山本司郎：“脳卒中領域の抗血栓療法”。第 29 回法円坂地域医療フォーラム、2013.6.15、大阪

山本司郎：“脳梗塞の診断と治療：最近のトピックス”。平野区医師会学術講演会、2013.7.18、大阪